を高める。実施後の効果は、週2回3か月間行った結果、蹴る力が強くなった、歩行速度が増した、重い物が持ち運べるようになった、健康であると自覚する人が増えた等の効果が見られました。「いきいき百歳体操」に加え、口腔予防のための「かみかみ百歳体操」も開発し、あわせて実施普及に努めています。

高知市の実践から学ぶこと

①行政が縦割りではなく介護予防施策についてのチームを組み、高齢者の実態把握と現状分析をしっかりと行い、具体策と目標を導き出していること。

②科学的根拠に基づいた体操の開発。

③VTRの作成、用具の無料貸し出しなど取り組みやすい工夫をこらしていること。

④住民の力を信じ、引き出し、実施にあたっては住民主体を貫いていること。それが継続に繋がっている。

所感（茅野市での展開の可能性）

介護予防について検討をする各課を横断した組織は考えられないか。

各区で行われている「足腰お達者教室」を発展、定着させていくヒントにならないか。

「いきいき百歳体操」は高知だけでなく北海道から九州まで広がり、多くの自治体で実施されている。茅野市でもモデル地区を設定し実施してみてはどうか。

市民力、地域力がこの施策を支えている。市民に対してのアプローチのしかた、仕組みづくりについて教訓を参考にできないか。

「いきいき百歳体操にチャレンジ」

経済建設委員会

委員長	大久保 功身
副委員長	宮坂 武男
委員	伊藤 勝
委員	篠原 啓郎
委員	野沢 明夫
委員	両角 昌英
産業経済部長	折井 健次
議会事務局	宮坂 佳樹

自転車を利用した都市(まち)づくり計画

香川県高松市 7月11日(水)

視察目的

環境にやさしく機動性に優れた自転車を、自動車に替わる都市内交通の重要な手段として明確に位置づけて先進的に環境づくりを推進している高松市を視察しました。

「人と自転車が笑顔で行き交うサイクル・エコシティ高松」

中央通りにおける分離施設による自転車道の整備、地域やマスコミの協力による駐輪場利用の促進、放置自転車を活用したレンタサイクル事業、商店街における歩行者と自転車の分離の試み、観光客利用にも配慮したレンタサイクルの利便性の向上など。

所感（茅野市での展開の可能性）

茅野市は平地が非常に少なく、高松市における取組をそのまま適用することは難しいが、放置自転車対策や再利用のレンタサイクル事業、自転車と歩行者の分離などは参考になる部分がありました。放置自転車を再利用し、観光地への払い下げによっての活用も考えられます。また歩車分離から車道のカラー化などは、駅前から市役所通りなど幅員の確保できるところから施工してみるのもよいでしょう。両市の条件は違っても、活用できる取り組みは多いと感じました。

高松丸亀商店街再開発事業

香川県高松市 7月11日(水)

視察目的

「にぎわい・回遊性のあるまちづくり」をコンセプトに掲げ再開発に成功した、高松市の丸亀商店街を視察しました。

高松市中心市街地活性化基本計画

丸亀町商店街は高松城築城とともに開かれ、400年の歴史を持つ高松で最も古い商店街です。衣料品店を中心に約150の専門店を有する高松市最大の商店街でしたが、近年、他の地方都市と同様に郊外型の大型店の影響により商店街は空店舗が目立ち始めました。

この事業は、丸亀町商店街振興組合によって商店街全盛期の1983年に計画され、街をAからGの7つの街区に分け再開発するものです。全国的にも珍しく、商店街としては大規模な再開発のため、県内外から注目されています。

中心市街地活性化に向けた3つの基本方針と目標

①日本初の試みとなる、土地の所有と利用を分離したテナントミックスの考え方に基づき、商業・サービスの質の向上、魅力強化を図る。

②中心市街地内の他の場所の活性化にもつなげるよう、商店街の魅力的な空間づくりや道路のバリアフリー化事業などにより回遊促進に努める。

③まちなかの魅力や便利さを評価し、住みたいと思う人へ魅力的な住宅を供給するなど、定住人口の増加策を講じる。

所感（茅野市での展開の可能性）

何より注目すべきは、事業の複合的取組の姿勢です。いわゆる公共投資において、箱物や市街化事業におけるハード面の整備は多くみられますが、ソフト面の取り組みが伴わず、形はきれいにできたが、賑わいは戻らずといった結果がみられるのが常です。茅野市においても、そこに住む人たちを大切にし、さらに新たな住民を呼び込むような計画が必要であり、ぜひ人が住みたくなる環境を作る開発を模索していくべきではないかと感じました。

開放感あふれるアーケード内
（高松丸亀商店街）

彩(いろどり)事業について

徳島県勝浦郡上勝町 7月12日(木)

視察目的

昭和56年2月、マイナス13度という局地的な異常寒波に襲われ、上勝町特産のみかんやすだちが大打撃を受けました。また、過疎と高齢化が同時進行しており、このピンチから脱出する手段として、当時JA職員だった横石知二氏（現㈱いろどり代表取締役）が「町の半数近くを占めるお年寄りが活躍できるビジネスはないか」と模索し、"つまものビジネス"＝"葉っぱビジネス"として1987年にスタートしました。

彩（いろどり）事業

"つまもの"とは、日本料理を美しく彩る季節の葉や花、山菜などで、そのポイントは、軽量で綺麗であり、女性や高齢者でも容易に取り扱うことができることです。現在の年商は2億6千万円で、中には年収1千万円を稼ぐおばあちゃんもいます。それを支えるのはPC（ブロードバンド・ネットワーク）です。決まった数量を毎日出荷するのではなく、農協で収集した販売単価や出荷数量などのデータを、㈱いろどりで分析し農家へ伝達します。農家のおばあちゃん達はそれをPCを駆使して分析し、全国の市場情報を収集して自らマーケティングを行い、翌日の生産量や品目の選定の目安にして葉っぱを全国に出荷します。またPCでは自分が町で何番目の売上を上げているかの順位も分かるようになっており、こういったビジネスモデルの全てが良い刺激になり、更なる発展へつながっています。

所感（茅野市での展開の可能性）

余裕のない現実に対応を迫られると、アイディアは出るものとだ感心しました。行政運営のヒントは、実はどこにでもあるかもしれないと、上勝町の葉っぱビジネスは教えてくれました。茅野市に置き換えてみると、コーディネーターや仕掛け人などの人材を育てる政策が現実的で即戦力になるのではと感じました。

市民提案型身近な道路をよくするモデル事業

徳島県徳島市 7月13日(金)

視察目的

市道の改善個所を、公募により決定している徳島市のユニークな取り組みを視察しました。

事業概要

市民等から市道の改善個所についてさまざまな要望やアイデアを公募し、応募された事業の提案を、「市民提案型身近な道路を良くするモデル事業審査委員会」において、事業実施の採択や優先順位などについて審査し、事業個所を決定します。対象工事は、概ね500万円以内の小規模なもので、実施された主なものは、スクールゾーンのカラー舗装、横断歩道の前後のカラー舗装、ガードレールの設置など。

所感（茅野市での展開の可能性）

特徴的なのは、従来の要望型の工事と違い、順序付けを審査委員会が行う点です。茅野市において500万円が小規模工事にあたるか疑問ですが、金額の大小はおいても着手の順序と妥当性を地元要望との兼ね合いを見つつ判断できる点は、大いに取り入れる価値はあるのではと感じました。

徳島市役所にて

LEDによるまちづくり

徳島県徳島市 7月13日(金)

視察目的

LED産業の先駆的都市である徳島市のまちづくりを視察しました。

徳島市LED景観整備事業

LEDの開発・応用に関して徳島では、多くのLED関連企業のほか学術的蓄積のある大学等の研究機関が存在し、他の地域と比較して圧倒的な優位性を有しています。この優位性をいかして、徳島県では2007年に「LEDバレイ構想」を策定し「世界をリードするLEDの拠点・徳島」実現のために、LED産業の集積を目指しています。

徳島市では「LEDが魅せるまち・とくしま」というキャッチフレーズを掲げて、これまでに水を活かしたまちづくりで整備してきた水と緑の魅力に、地域資源であるLEDの「光」の要素を加えて、他都市にはない新たな魅力をもつ「水都・とくしま」を創造するため、LEDによる景観整備や徳島LEDアートフェスティバルを開催しました。これらの取り組みについては、単なる景観整備やLEDアートフェスティバルの開催を目的にしたものではなく、「徳島＝LED」というブランドイメージを全国に発信することにより、市内に事業所を有するLED関連企業数の増加を図るとともに、新たな観光地づくりによる交流人口の増加を図り、滞在型集客の拡大を図るもので、地域の活性化を目指しています。

所感（茅野市での展開の可能性）

LEDを利用した環境作りは、茅野市でも即挑戦できると考えます。例えば木落公園をLEDで装飾し、中央線を通過する乗客に見せることで、一度ゆっくり訪ねてみたいと思わせる。また、小水力発電とLEDのコラボレーションにより、LEDがかもし出す幻想的な風景を観光地に作る。LEDの効果は夕方から夜間に発揮されるので、宿泊滞在を伴う観光スポットに利用できる可能性は十分あると考えます。